

スーパーマーケット景気動向調査

2024年4月調査結果（3月実績）

（2024年4月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は2か月連続で50を上回る

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+1.8の53.1となり、2か月続けて、好不調判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は前月から+0.4の48.7と、大きな変化はなく横ばいでの推移となっている。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月から横ばい。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが引き続き高水準を維持、客単価DIは大きく上昇した一方で、来客数DIは低下、マイナス圏となっている。

カテゴリー動向調査では、すべてのカテゴリーDIがプラスに。気温の低下による生育遅れで青果相場が高騰、水産も入荷減で相場が高くなったものの販売数量は堅調に推移し好調。節約志向による肉食需要に加え、気温が前年より低くホット商材が好調の日配や一般食品が堅調な動向を見せた。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断DIが小幅に改善し、景気判断DIと消費者購買意欲DIは50を上回る水準まで改善した。一方で見通し判断には前月から大きな変化はみられなかった。（長期傾向はP11参照）

3月は、土日が前年より2日多い曜日めぐりの追い風があったことに加え、肉食需要を背景に、単価上昇が続くなかでも販売数量が堅調に推移を続けている。ひな祭りやお彼岸、卒業式などハレの日が多い月にあたり、関連需要の受け皿となったことも、好調な販売動向を牽引した。一方で、前年と比較した気温の大幅な低下により、鍋関連やホット商材の動きがよくなった一方で、花見時期が当初の予想よりも遅れ、酒類や惣菜などで大きな影響を受けたというコメントも多くなった。季節性の強い食品への需要が高まる一方で、天候は販売する側の思い通りにはならずロスが出やすい。リードタイム延長が求められる中で、春夏と秋冬、季節の変わり目の品揃えをいかに行っていくかの課題感が強まっていると言えよう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：53.1 (+1.8)
前月：51.3

消費者購買意欲DI
当月：50.5 (+1.2)
前月：49.3

周辺地域 競合状況DI
当月：45.8 (-0.1)
前月：45.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：50.2 (+1.0)
前月：49.2

見通し判断

景気判断DI
当月：48.7 (+0.4)
前月：48.3

消費者購買意欲DI
当月：47.1 (-0.8)
前月：47.9

周辺地域 競合状況DI
当月：45.2 (+1.0)
前月：44.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：48.2 (+0.3)
前月：47.9

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：14.9 (+1.8)
前月：13.1

客単価DI
当月：18.5 (+6.3)
前月：12.2

来客数DI
当月：-2.8 (-6.2)
前月：3.4

収益DI
当月：12.5 (-0.9)
前月：13.4

販売価格DI
当月：21.7 (+1.4)
前月：20.3

生鮮品仕入原価DI
当月：20.4 (+2.1)
前月：18.3

食品仕入原価DI
当月：21.6 (0.0)
前月：21.6

カテゴリー動向

青果DI
当月：16.8 (+4.2)
前月：12.6

水産DI
当月：10.9 (-0.5)
前月：11.4

畜産DI
当月：6.9 (+0.9)
前月：6.0

惣菜DI
当月：8.5 (-8.1)
前月：16.6

日配DI
当月：13.8 (-0.5)
前月：14.3

一般食品DI
当月：15.0 (+1.3)
前月：13.7

非食品DI
当月：3.4 (-3.7)
前月：7.1

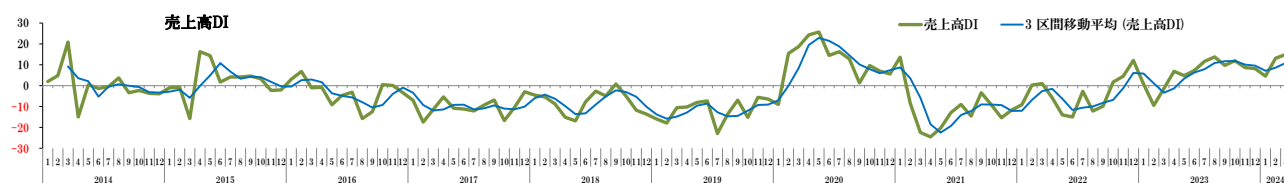
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス圏で推移

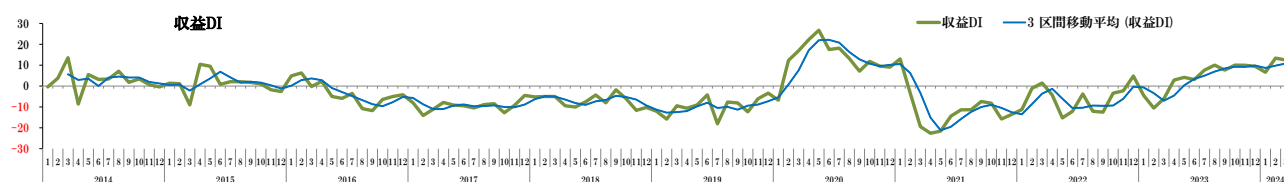
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.5	10.7	27.1	42.9	14.7	13.1
売上高 (当月)	2.6	7.1	31.2	46.1	13.0	14.9



2. 収益DI

前月から横ばい推移、二桁プラス圏で推移

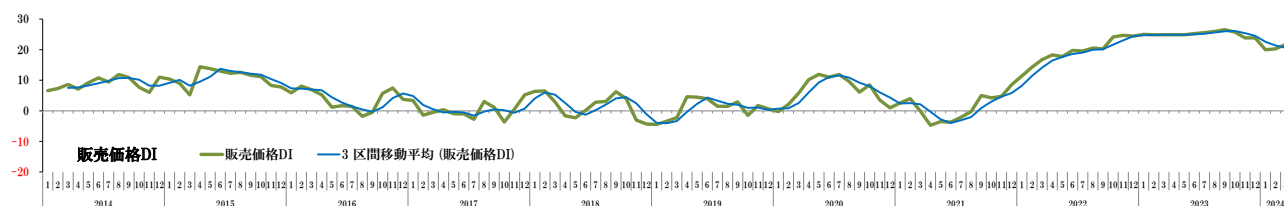
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	2.9	10.9	31.0	40.2	14.9	13.4
収益 (当月)	1.3	13.3	34.7	35.3	15.3	12.5



3. 販売価格DI

前月から小幅に上昇、高水準で推移

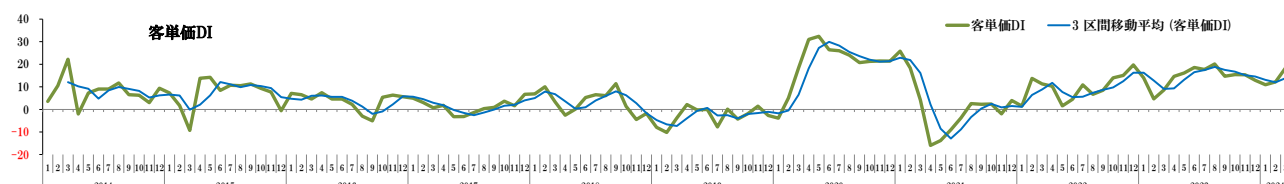
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.1	23.6	68.4	6.9	20.3
販売価格 (当月)	0.0	1.3	19.7	69.7	9.2	21.7



4. 客単価DI

前月から大幅に上昇、二桁プラス圏で推移

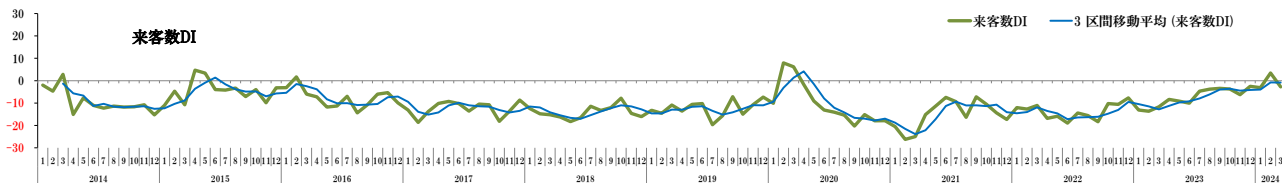
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	8.5	35.2	50.6	4.5	12.2
客単価 (当月)	0.0	5.9	22.2	64.1	7.8	18.5



5. 来客数 DI

前月から下降し、再びマイナス圏に

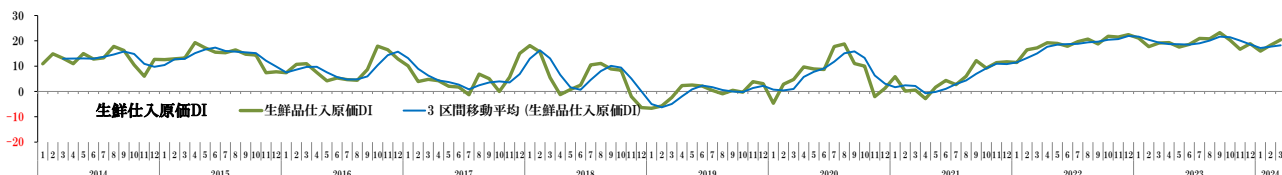
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	3.4	27.3	27.8	35.2	6.3	3.4
来客数 (当月)	4.6	32.2	36.2	23.7	3.3	-2.8



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準続く

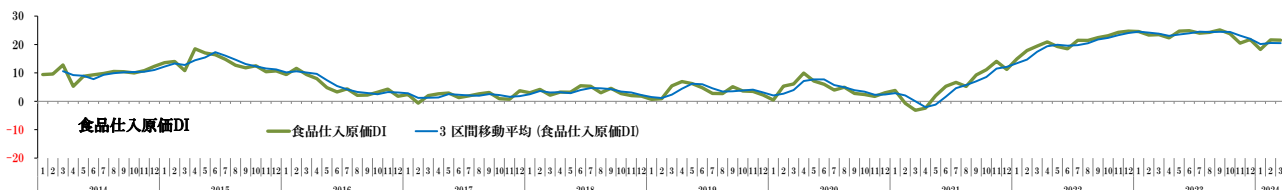
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	2.3	30.2	57.0	9.9	18.3
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	4.8	20.4	60.5	13.6	20.4



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい、35 か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	2.9	18.8	64.7	12.9	21.6
食品仕入原価 (当月)	1.4	4.8	15.2	63.4	15.2	21.6

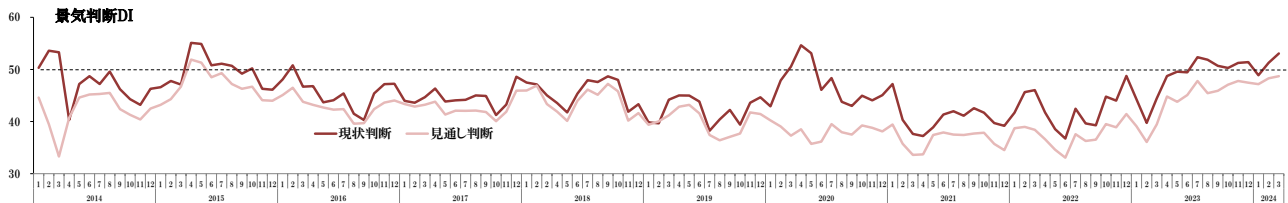


Ⅱ. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景気判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断 DI は 50 を上回る水準を維持、見通し判断は横ばい

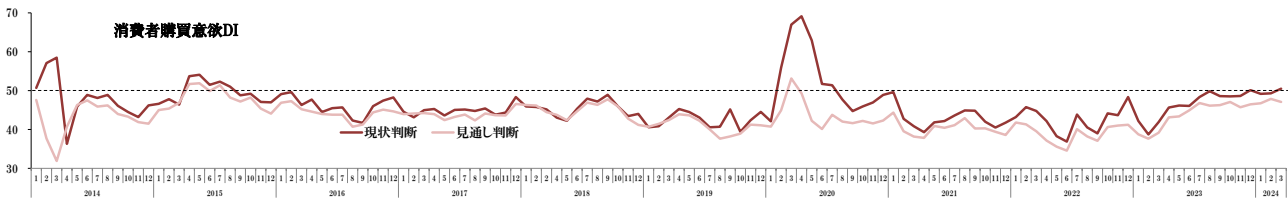
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.1	9.0	73.4	16.4	0.0	51.3
【現状】景気判断 (当月)	0.6	12.3	63.9	20.6	2.6	53.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.1	17.5	68.4	13.0	0.0	48.3
【見通し】景気判断 (当月)	1.3	17.4	68.4	11.0	1.9	48.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は改善し 50 を突破、見通し判断は前月水準で推移

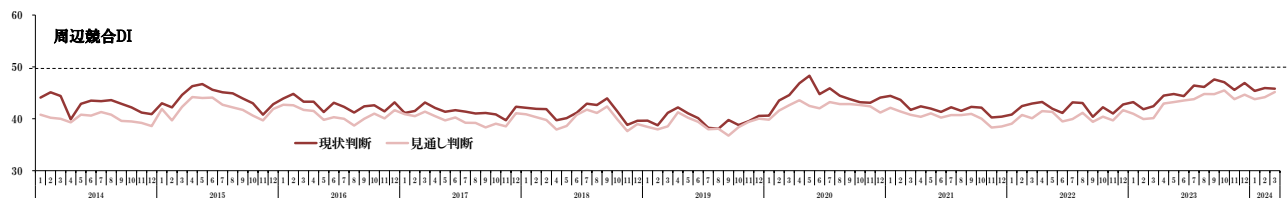
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.6	16.3	68.5	14.6	0.0	49.3
【現状】購買意欲 (当月)	1.3	14.3	66.9	16.2	1.3	50.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.6	18.6	69.5	11.3	0.0	47.9
【見通し】購買意欲 (当月)	1.3	19.4	69.7	9.0	0.6	47.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

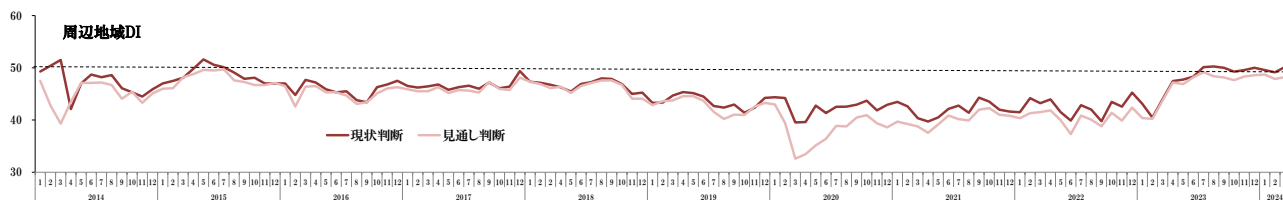
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.7	15.7	80.3	1.7	0.6	45.9
【現状】競合状況 (当月)	3.2	18.1	72.3	5.2	1.3	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.8	19.9	75.0	2.3	0.0	44.2
【見通し】競合状況 (当月)	3.9	18.1	72.3	5.2	0.6	45.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は改善し 50 を突破、見通し判断は前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.6	9.6	83.1	6.2	0.6	49.2
【現状】地域景気 (当月)	0.0	7.7	85.2	5.8	1.3	50.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.6	13.6	80.2	5.1	0.6	47.9
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	13.5	80.6	5.2	0.6	48.2

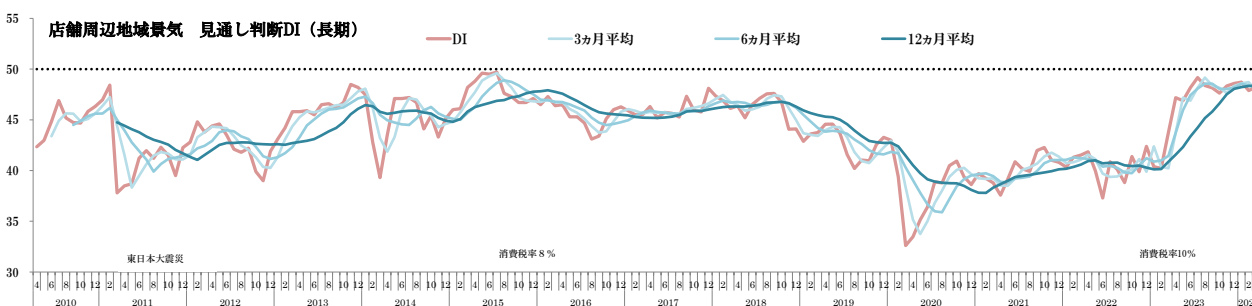
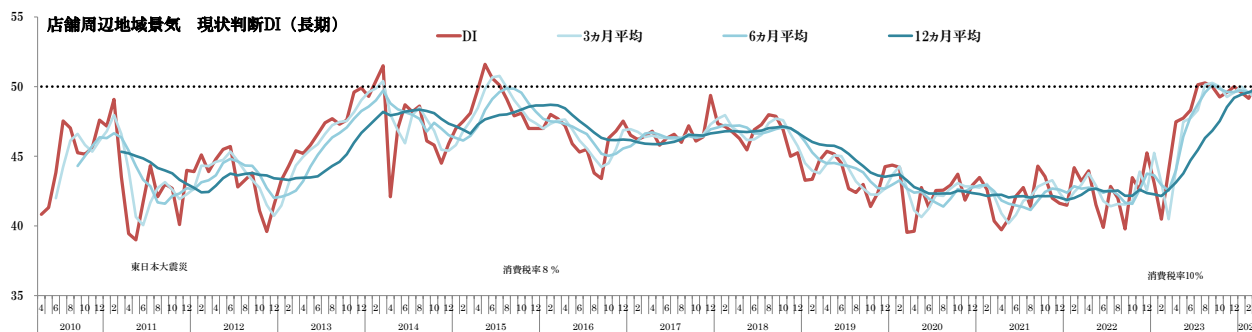


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

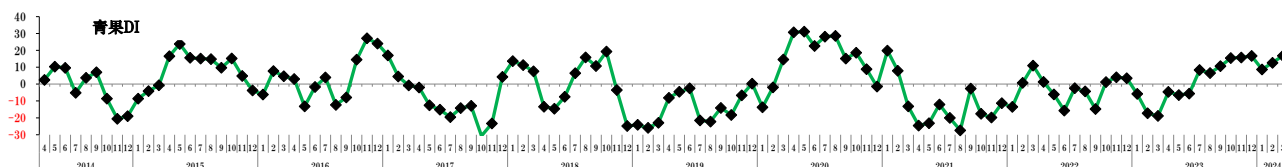
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI : 16.8 (好調)

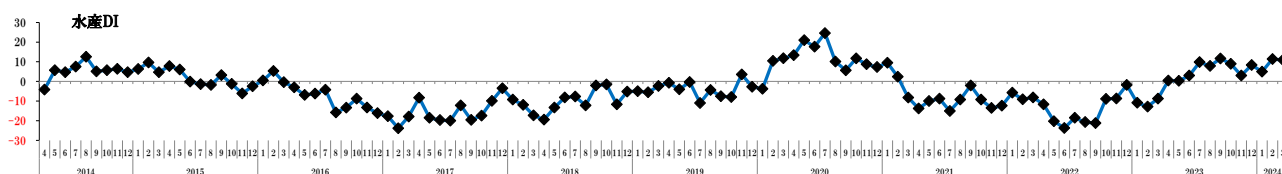
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	1.8	16.7	25.6	41.1	14.9	12.6
青果 (当月)	2.0	11.3	25.3	40.0	21.3	16.8



冷え込みによる生育遅れで、相場は高値傾向で推移。前月同様、玉ねぎなどの土物類が前年相場安の反動で単価増も加わり、好調となった。気温が低下した地域が多く、白菜やネギ、キノコなど鍋関連商材の動きがよかった。サラダ関連は気温の状況により好不調がわかれた。国産果実は全般的にやや相場高傾向が続くなか、柑橘類、イチゴを好調とする店舗が多く、輸入果物ではバナナ、キウイフルーツ、ブドウの動きがよかった。

2. 水産 DI : 10.9 (好調)

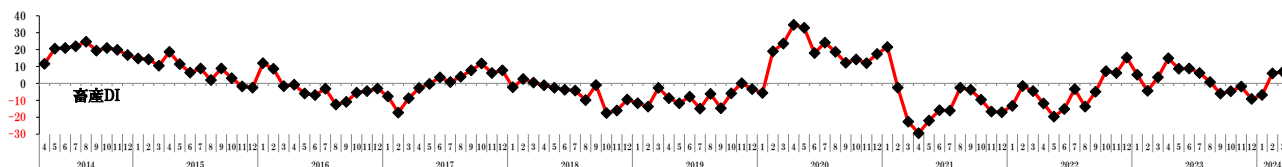
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	1.8	18.9	27.2	36.1	16.0	11.4
水産 (当月)	3.4	16.3	29.3	35.4	15.6	10.9



天候により入荷不足、相場高の地域もある一方で、旬のホタルイカをはじめ相場が下がった魚種も多く、好調となった。マグロ、ブリ、サーモンなどの刺身類が販売しやすい価格で好調に推移、ひな祭り関連商材も好調となった。気温が前年より低く推移したことで、タラヤカキなど、鍋関連商材の動きがよかったとのコメントもみられた。高値で推移したうなぎ類は不調とする店舗が多い。

3. 畜産 DI : 6.9 (やや好調)

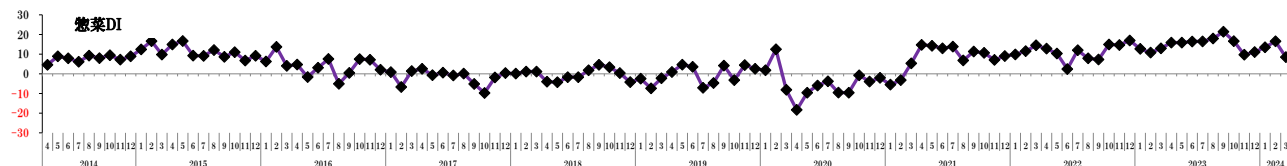
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	4.2	20.2	31.5	35.7	8.3	6.0
畜産 (当月)	4.0	20.1	30.9	34.2	10.7	6.9



前月同様に、価格が安定している豚肉や鶏肉への需要シフトが継続しているものの、全体的に前年に比べ相場に落ち着きが見られ、販売は好調に推移。豚肉は国産相場が安定、小間切れやひき肉など普段使いの商材を中心に売上が回復。前年鳥インフルエンザからの反動もあり、鶏肉も引き続き好調な推移。前年より気温が低く、鍋関連の需要の動きがよかった。国産牛肉は、ひな祭りや卒業シーズンなどハレの日を中心に回復傾向が見られたが、輸入牛は価格が高騰しており動きが鈍い。加工品は値上げの影響で不振とする店舗が多い。

4. 惣菜DI：8.5（やや好調）

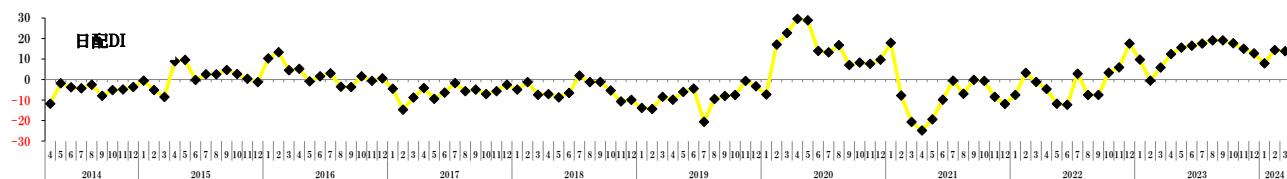
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.0	10.2	24.1	42.8	19.9	16.6
惣菜（当月）	4.8	12.2	36.1	38.1	8.8	8.5



ひな祭りに関連した、ちらし寿司などは概ね好調だったものの、寿司類全般では低い気温により伸び悩んだとの声が多い。一方で麺類などホットメニューの動きがよかった。焼鳥などおつまみ関連は花見時期のズレによる影響も。天ぷら、コロッケなどの揚げ物類、単価が上昇している米飯類、おかず類の好調が続いている。インスタペーカーやサンドイッチなど、パン類も比較的好調となった。新メニューやイベントの開催により、成果をあげた店舗がみられる一方で、人手不足により製造や開発などの対応が遅れているとのコメントもみられた。

5. 日配DI：13.8（好調）

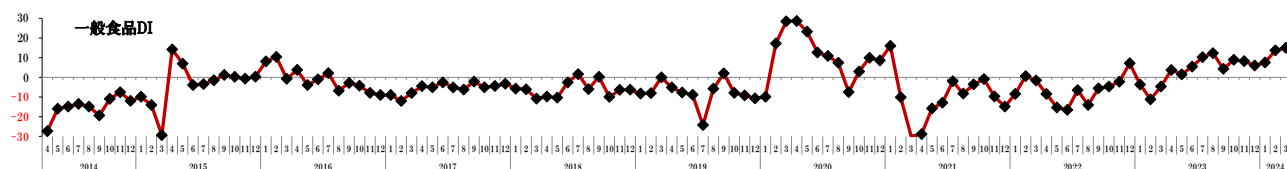
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.8	9.5	32.0	43.2	13.6	14.3
日配（当月）	2.0	10.1	33.6	39.6	14.8	13.8



値上げの影響により単価上昇が続く一方で、買上点数は増加傾向がみられ、好調な動向が続いている。牛乳やチーズなど乳製品、パン類は価格改定後も堅調な動向を維持、引き続き乳酸菌飲料の動きがよい。気温が低下し、鍋・おでん関連の水物や練物、麺類などのホット商材が好調となった。鶏卵は、やや相場高が継続、売上が伸長した店舗が多い。冷凍食品、納豆や豆腐など、ベーシックな商品群が堅調に推移した。

6. 一般食品：15.0（好調）

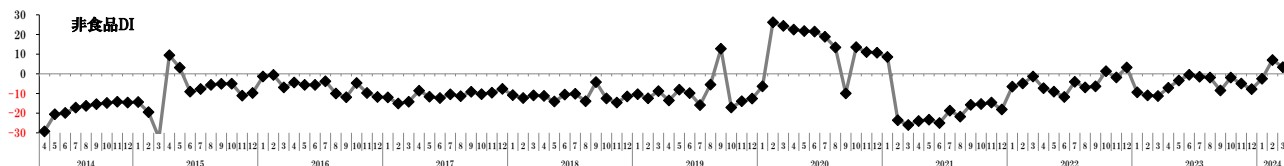
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.8	11.9	29.2	44.0	13.1	13.7
一般食品（当月）	2.0	14.0	26.0	38.0	20.0	15.0



全般的に販売価格上昇による単価増が続くなか、点数が増加している店舗もみられるなど好調なコメントが多い。気温が低く推移した地域が多く、鍋つゆやスープ、シチュー、コーヒーなどのホットメニュー関連が好調に推移した一方で、飲料類は伸び悩んだ。食用油は値上げの影響が一巡し回復傾向がみられ、調味料は前月同様に堅調に推移した。米類は好不調の判断がわかれた。菓子類は好調だが価格競争の厳しさを指摘するコメントが多くみられた。

7. 非食品DI：3.4（やや好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	3.7	19.6	35.0	28.2	13.5	7.1
非食品（当月）	6.2	21.9	35.6	24.7	11.6	3.4



単価が上昇したトイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品が引き続き好調に推移した。ペットフード、ラップやホイルなども単価上昇で好調とのコメントが多い。一方でマスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要低下傾向が続く。家庭用洗剤は単価が上昇した一方、競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。地震に対する備えとして、電池やガスボンベなどの備蓄品の動きがよい地域もみられた。気温の低下により冬物関連が好調となった店舗もみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2024年4月調査（3月実績）キーワードTOP3

1. 前年より低い気温
2. 休日が前年より2日多い
3. ハレの日需要好調、花見時期のずれ

（参考）2023年4月調査（3月実績）キーワードTOP3

1. 価格高騰による単価増、節約志向の高まり
2. 行楽需要や花見需要好調
3. 平年より高い気温による影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3月実績速報版 155社
 2月実績確報版 178社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp